

様式1 令和2年度 山梨県立富士見支援学校旭分校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	児童生徒の病状等に配慮し、健康の回復を図りながら義務教育課程における学習空白を補完する。そして、社会の中で人と関わりながら生きていくための力を育む。
-----------	--

山梨県立富士見支援学校旭分校 校長 中村 千尋

本年度の重点目標	1 児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。 2 前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実へ努める。 3 健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価

番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	令和2年度末評価(2月7日現在)			
					自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	児童生徒の実態、教育環境に応じた支援や学習指導を行い、一人一人の確かな学力を育む。	合理的配慮を踏まえた個別的教育支援計画の作成、個別の指導計画作成により、適切な評価を行い、指導の改善を図る。	児童生徒の実態・教育環境に応じてICTの活用、指導法を工夫することにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	個別的教育支援計画については転入時に保護者に丁寧に説明を行ったが、転入期間が短いこともあり、作成に至らないことが多かった。保護者からは理解を得られた。 個別の指導計画については各学期及び転入ごとに作成し、全職員共通確認のもと指導にあたった。指導計画の枠を見直し、計画と結果を一度で確認できるようにした。評価会議を経て、検証をし、次の	B	個別的教育支援計画については回復への期待や転入期間の短さから作成に至らないケースが増えているが、今後も説明を丁寧に、作成に取り掛かれるようにする。 個別の指導計画は中学部は新学習指導要領の趣旨を踏まえ、実施計画をする。評価に關しても職員全体で共通理解を図り、適切に行うようにする。 児童用ノート/パソコン、書画カメラ等の活用により、学習活動の中でICT機器を有効に使うことができるようになった。プログラミング教材ロボットを活用した。新しい機器が導入されたので活用の仕方を検討し、教員の理解を深める必要がある。今後も、学習の発展的な活動として、体験的な活動を組み入れていくことが必要である。
2	前籍校や病院、関係機関等との連携を図りながら、児童生徒の支援の充実へ努める。	チーム学校として支援に努める。また、電話・インターネット活用(Web会議)等により、保護者や前籍校、病院、関係機関等と連携をさらに深め、児童生徒の教育の充実へ努める。	教育相談、訪問支援、学校見学、研修支援等を適切に実施し、児童生徒の支援の充実に努める。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	今年度は、旭分校のセンター的機能についてプレットを作成・配布し、啓蒙活動を行った。また、保護者や関係機関等との連携については、従来通りの方法も利用しながら、情報共有を行い、児童生徒の教育の充実へ努めた。 教育相談は臨時休業中においても感染症対策を講じたうえで実施したり、校内を動画撮影し学校見学の代替にしたりする児童生徒を取り巻く環境と本人と保護者のニーズに合わせた支援を考え、実施することができた。	A	連携の方法として、インターネット活用(Web会議)等も検討したが、双方の環境を整えることが課題となった。限られた機会により多くの成果が出せるよう、事前の情報整理や情報共有の在り方について検討していく。 コーディネーターの資質向上に努め、地域のニーズに合わせた支援ができるようにしていく。また、旭分校の教育やセンター的機能について支援対象地域の学校や関係機関に紹介する機会を設定していく。
3	健やかな心身の涵養とよりよい人間関係の形成を図り、社会に参加する態度を育成する。	教育課程に児童生徒の病態を考慮した系統的・体系的なキャリア教育を位置づけ、その充実を図る。	保健教育や道徳教育を通して、自他を大切にすることを育て、基本的な生活習慣を身につけさせる。	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒・保護者アンケート、学部会での検証(満足度80%)	児童生徒につけさせたい力を全体計画で確認し、学部・学級ごとに連携して実施した。今年度はキャリア・パスポートを作成し、転入時と転出時に実施した。児童生徒が自分の課題に向き合う意識を持って学校生活を送るきっかけになった。進路については児童生徒の希望に基づき、保護者と前籍校と連携して指導した。 行事等の中止もあったが、年間計画に従い全職員で教育活動全体を通じて指導した。その他、外部講師を活用し、命について考える機会を設けた。また、新しい生活様式にそった行動がとれるよう感染症予防に向けた指導を実施し、保護者への研修も実施した。今年度も愛校作業や植栽活動に取り組み、環境に対する意識や社会性を高める機会となった。 道徳教育全体計画に基づき、日常生活の様々な場面で全職員による継続した指導を実施する。また特別活動や学部行事を在籍する児童生に応じて適切に設定し、相互にかかり基本的な人とのかかわりが学べるようにする。 職員間の情報共有に努め、家庭や主治医と密に連携し、実態に応じた支援を行っている。	A	児童生徒の実態把握を丁寧に、個別のねらいを検討し、職員間で共有していく必要がある。また、在籍期間の短い児童生徒にも適切な指導ができるよう外部と密に連携していくようにする。より充実した指導になるようキャリア・パスポートの実態に即した修正や有効な活用について検討していく。

学校関係者評価

実施日(令和3年2月19日)		意見・要望等
3	【合理的配慮など】 入院中に見相に通告したケースが過去最多となっている。見相の判断待ちのケースが増えている。対象生徒の家庭内暴力が原因で入院してきたが背景として過去に虐待を受けていたということと通告することになったケースが多いが、学校と連携して対応できたことに感謝している。 摂食障害のお子さんは家庭の問題を背景にして発症しているケースが多い。入院して食べることができるのは安心感からくるもの。学校でも安心してできる環境をつくってもらい、ありがたい。 【ICTなど】 遠隔授業について、動画配信に慣れてしまうと、学校に行くことが良いのか、動画配信のままが良いのか、難しい問題だと思う。Zoomなども、時間を指定して実施できる点は良いと思うが、そればかりになってしまっても困るかもしれない。 全く登校せず、周囲とのかわりをシャットダウンしている生徒にとっては、入り口となて良いかもしれない。 北病院と中央病院でカルテの共有はできないが、リモートを使つての医教連絡会などもできるのではないかな。	
4	【支援・連携など】 うぐいすの杜学園との連携及びすみ分けについて、いずれ検討していただきたい。80万人台の県の中に、2つの病弱の学校がある状況を上手に利用してもらいたい。高等部についても設置できればよいのではないかな。 旭分校で高校生を含めた学習のサポートを検討してもらっている点は非常にありがたいと思っており、今後連携していきたい。 旭分校とは今年度は非常に連携しやすかつた。学校側も主体的に動いてくれたこともありがたかつた。積極的に受け入れてくれることもありがたかつた。 旭分校には早く受け入れをしてもらい良かったと思っている。北病院の患者さんの特徴としては、見相に通告するケースが多くなっているが、学校との連携で対応できたケースが多かつた。 北病院・中央病院どちらで受診していても双方の学校を利用できるようなシステムに変えていけると良いのではないかな。	
3	【学校教育全般で配慮する事項など】 児童生徒について、児童生徒について、摂食障害が多いと感じる。これまでの摂食障害とはタイプが違う独特の子も多くもっている。親の影響から生活習慣が乱れているケースも多く、社会全体の問題だと気になっている。 思春期病棟の患者数が増えている。新型コロナウイルス感染症の影響で予約がいっぱいの状況。緊急性が高い事業や緊急の対応を要する案件も多い。学校でもその(社会不安の)状況を考慮した計画や取り組みが必要とされている。 北病院の患者さんの特徴のひとつとして性被害が多くあつている。性被害や性教育について学ぶ機会を保障したい。また、LGBTIについても配慮が必要である。 患者の若年化の傾向がある。親の手に負えなくなつて受診や通報につながっているケースは多い。親の養育能力の問題で破綻しているケースが多いと感じる。年度による増減はまたまではないかと思つている。中2や中3になつて家族も焦つて対応しているケースが多いことから、学年が進むにつれて増える傾向がある。このケースに応じた対応が必要とされてくる。	

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。